

# 築100年以上の空き家再生

## 九大生らリノベーション 上毛



大分県境の上毛町で、築100年以上の空き家を「リノベーション」と呼ばれる手法で、地域の交流拠点に再生させるプロジェクトが進んでいる。改修工事は31日に完了する予定。若い世代の視点を生かそうと、九州大、北九州市立大、佐賀大などで建築やまちづくりを学ぶ学生らに設計から施工まで任せ、地域住民とも議論して造り上げるユニークな取り組み。過疎化に伴って増える空き家の新たな活用方法としても注目されそうだ。

(柳原正和)

上毛町は人口約8000人。町内には空き家が約250軒ある。このうち山あいに残る築100年以上の古民家1棟(98平方メートル)を「田舎暮らしのシンボル」として改修しよう、と町が企画した。

若い世代のアイデアを取



県税務課に置かれて

りとした柱を振る舞いをするケースがあり、職員は恐怖を感じる時があるという。県は宝塚の事件後、さすまたの導入を決めた。「長

当職員と合同でトランプル対応訓練も行っている。昨秋の初の訓練には約250人が参加。暴漢役を務める警察官を職員がさすまたを使って威嚇し、その隙に

### あす工事完了 地域の交流拠点に

①交流拠点施設として生まれ変わる古民家  
②古民家の改修作業について打ち合わせる大学生ら

り入れるため、建築学科の大学生らを対象に教育プログラムを手掛ける福岡市の不動産開発会社「DMX」に事業を委託した。同社は大学生7人と設計事務所の若手社員1人の計8人を公募で選んだ。

プロジェクトは昨年12月に始動。学生らは建築の専門家や地域住民の意見を聞きながら、現場近くの民家で設計を議論する合宿を重ねた。1月までに約100枚の図面を描き、模型も約20回作り直した。

古民家の特徴を生かすため、外装は屋根を塗り直して瓦を吹き替えるだけにとどめた。内部は広い土間を配し、床張りのイベント広間や共同作業スペースをゆったり設けるなど交流拠点としての機能に重きを置いた。

2月の着工後、学生らは

ほぼ毎日交代で作業に従事した。延べ約100人の住民も施工に協力。周防灘を見下ろせる場所の壁をガラス張りにし、砂や赤土などを塗り込んだ昔ながらの土間を再現するなど、新たなアイデアも取り入れた。

参加メンバーのリーダーを務めた岩崎裕樹さん(23)(福岡市)は設計事務所に勤務する。「現場でモノづくりの楽しさや苦労を味わうことができた」と話す。

北九州市立大4年の菊田光祐さん(22)は「自分たちで作り上げた施設が今後どう活用されていくかが楽しみ」と胸を膨らませている。

施設は6、7月頃から、町への移住希望者の窓口や交流イベントの拠点として本格的に活用される予定。町の臨時職員が常駐する。

上毛町の担当者は「若者たちに刺激された住民が、空き家の改修に新たに取り組んでもらえれば」と波及効果を期待していた。

### 黒田 戦国



黒田官兵衛と、豊前の旧領主・宇都宮氏の戦いを描いた「マンガ黒田官兵衛と官兵衛は1587年(天

大河ドラマ、中津城の津市教委が、尚宣さんに制した。市教委はたな社会の構

月齢 0.3 (旧暦3月1日)

天気 福岡 筑後 筑豊 北九州

福岡	宗像	久留米	大牟田	北九州	飯塚	行橋
午前	午後	夜	60	60	60	60

漫画のほか